

訪米阻止の了口キーンズ
NIC 4 11/16

中絶奮闘
解放の足

た／＼はなせ誤りな
 事々と獨白
 の対決点はどこに
 あるか

沖繩區置をめぐる各派の主張は
 殊々であるが、その主旨ものを取
 り上げ、批判し、行く中で我々の基
 本的態度を明らかにして行きたい。

神經存遺
証北

まず中樞派諸君の主張としている
「神龍真鑑」なるスロ―カンヒツ
て批判して行く。

現在日を追つて神龍百五県民の
祖國復帰"として本土の、神龍区
の要求が高まつてゐる中にあ
つて、日本の政府側、そしてそ
の頭目である、70年以降の東南ア
シヤの要請を實現すべく、その為の要否
として神龍をフルに利用しようとな
つてゐる。そして、自らも神
龍返還を交渉に行くほどとなつて
ゐる。なかなる、神龍返還の全
ては、自己の政策の枠内に
取り込んでしまふと企圖してゐる。

佐藤の言う、神繩返還後、核攻
き本土並み返還を表面故にしてい
るが、事前其々の骨格を以てする実
質的核攻は自由使用返還であり、
安保の再編強化は本土の神繩化に
触自核武装という70年代を見越し
た侵略路線上に今圓の始毎耳新米
が政府独占の前にも、重下る意を
を持つて論議して来ている。

この新なる状況を念頭に置くなら
ば、單純かつ精神主義的に、個人
の主体性、意識性にかみ押籠めす
べきを解消してしまひ、冲観返還

の形態を一切詰らない。奪取は注の
譲りは決定的である。といて、我
は返還の形態にのみ注目する余り、
政府は注の言う、後打を自由使用か、
後取を本土並みか、などという二
者択一的な証言には一切棄つては
置かないし、又沖縄を語る時、我
は常に担保との連関を立てて詔の
ゆばはならないのであり、本土並み
と、自初進取を前提とした証言に
棄つてはならない。即ち担保を破
棄し、沖縄については全ての基地
を敷去し即時全面返還を開き取る
斗いとして遂行されてこそ、政府
は占の侵略意図を粉碎して行ける
のだ。

の下の
沖繩解放、遼の譲り
統制は畢マルル米に見られるス口
本を批判しよう。我々は、今日
日本独占が市場再分割既に勝つ者
必死になつて沖繩を東南ア侵略の
布石とすべく策謀してゐることと
引年以來これに対する斗力が数回
組を中々に昂揚してゐることを知
つてゐる。沖繩才争勝利は本土と
沖繩の連綿を勝ち取り、政府独占
の策謀を各側撃破し独占傾斜直を
剥離化して行く方向で進まなければならぬ。これに對し、解放
記は現在の才争では、ヤマン以外の何ものも生まれたいといふ、
彼ら独トクの反社会的、反人民國家憲法に基づいてゐる。即ち今
場所一つある所の才争との連綿を拒否して、それのみならずこの斗
いの道で唯だに独口に反せよと、力を添へるにとみなめられずこれ
に反對する事で独口の意圖を示すと云ふのだ。そして自身を他方への接
点とせずともなうのでフランス以外何の事もなく、要するに
以上での解決は國家の憲法に非しやる。現在口争めまゝである。